

## 2024年度（2025年3月期）第2四半期決算説明会における質疑応答

日 時 2024年11月14日（木）14:00 ～ 15:00  
形 式 本社での対面と Web のハイブリッド形式  
説 明 者 取締役副社長執行役員 CFO 酒入 和男  
常務執行役員 CSO 多和 淳也

### 【2024年度第2四半期実績について】

質問	回答
2024/2Qにおいて、販売電力量が減少している要因は何か。	・ 電力販売については、その大半が両株主の小売業者に対してPPAベースで販売をしている。両株主の小売業者による調達が多様化が一因と考えている。
燃料調達価格影響の要因は何か。	・ 前年同期と比較し、市況が安定していた点が主因。金融ヘッジ等を用いた燃料調達と電力販売のリスクコントロールが前年同期と比較し安定的に運用できている点もある。
燃料調達先のうち、中東地域が占める割合はどの程度か。また、現在、中東情勢による影響はあるか。	・ 燃料調達先のうち、LNGにおいて中東地域が占める割合は2023年度実績で10～15%程度である。 ・ 現状、我々の取引において支障はないが、中東情勢については引き続き注視をしていく。
配当金の支払いが0である背景は。	・ 成長戦略を実行するために必要な資本政策に一定の方向性が出るまでは、配当を一旦保留とする旨の要請を株主から受けたため。

### 【2024年度見通しについて】

質問	回答
2024年度の期ずれ除き当期利益の見通しについて、一過性の要因はあるのか。	・ 武豊火力発電所の運転停止による影響を数百億円程度見込んでいるほか、海外・再エネ発電事業において、北米IPP事業におけるヘッジ取引の時価評価損の影響がある。

### 【成長戦略の進捗について】

質問	回答
2025年度の目標である期ずれ除き通期利益2,000億円は実現可能か。	・ 2024年度は一過性の要因による押し下げはあるが、収益の基盤を着実に築いており、統合のシナジー効果も十分に出自しているため、達成可能と考えている。
2026年度以降のPPAについてどう考えているか。	・ 卸売市場の発展や内外無差別の卸売の観点を踏まえれば、PPA以外の販売形態により弾力性や柔軟性は確保されていくものと考えている。

<p>2024年5月の成長戦略公表以降、様々な事業環境の変化があったが、成長戦略の内容にアップデートはあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ データセンターや DX 需要等により、将来的に電力需要が高まる可能性がある中、脱炭素と LNG 確保のパッケージの重要性が増していると考えている。</li> <li>・ 再生可能エネルギーの事業環境は厳しいものと認識しているが、環境コミットメントもある中、現時点で大きな変更は考えていない。</li> <li>・ 水素・アンモニアについては、LNG で培った長いバリューチェーンという我々の強みを引き続き活かせるものと考えている。国からの支援制度に加え、カーボンプライシング等の制度設計がどうなるかが重要。</li> </ul>
<p>JERA Nex の設立の意義を教えてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当社の再生可能エネルギー事業を集約し、Center of Excellence の構築を目的に設立した。再生可能エネルギー事業のパートナーを呼び込むことも目的としている。</li> </ul>

以上

#### 将来の見通しの記述について

本資料にある計画、戦略、業績予想等に関する記述は、記述した時点で当社が入手できた情報に基づいたものです。これらの予想・予測には、当社を取り巻く経済情勢、競合環境、関連法規、為替レート等不確実な要素が含まれており、これらの予想・予測を覆す潜在的なリスクが顕在化する可能性もあります。したがって、将来の実際の業績・事業環境等が本資料の記述と異なったものとなる可能性があることをご承知おきください。